

# 農産FAX情報 第6号

令和7年8月1日

ゆとりみらい21推進協議会 指導部会 幕別町忠類地区

## 1 秋まき小麦

### (1) 緑肥栽培

○エンバクは高温に弱く高温時期の7月中旬～8月上旬は種でいもち病の発病率が高くなります。発病条件は湿度100%が6時間となっており、1日の降雨によって発病します。発病が多い場合は乾物重が減少することから、高温時期の早まきは発病のリスクが高まり、遅まきでも積算気温は確保され生育量(すき込み量)が確保されることに留意し、管理を行いましょ。

## 2 ばれいしょ

### (1) 疫病防除

○疫病菌による塊茎腐敗は、茎葉の疫病菌が土壌中に侵入し、塊茎に感染して発病します。茎葉に効果があっても、塊茎腐敗には効果がない薬剤があるため、薬剤の選択に注意してください。

### (2) 軟腐病防除

○今後、高温多湿(25～30℃)な条件が続く場合は注意が必要です。引き続き防除を実施しましょう。

## 3 てんさい

### (1) 褐斑病防除

○例年では7月下旬頃から高温多湿傾向で推移し、褐斑病の発生が確認されておりました。R7 本年は7月中旬に初発が確認されております。散布間隔を10日以下に短縮することを検討し、引き続き予防防除に努めましょ。

### (2) ヨトウガ防除

○8月上旬からは第2世代の幼虫発生に注意が必要です。第2世代の幼虫は、8月上旬から10月下旬まで加害します。複数回の防除を行う場合は、同一系統薬剤の使用は避けてください。

### (3) シロオビノメイガ防除

○地域内で成虫を確認しております。引き続き防除を行いましょ。(FAX 情報第5号)

## 4 豆類

### (1) 菌核病・灰色かび病防除

○多くのほ場で開花期を迎えています。菌核病は開花期以降の多湿、灰色かび病は、低温多湿で発生が多くなるため、気象経過に注意しましょ。豆類の防除は、開花始めから7～10日後、その後10日毎に計3回防除を行いましょ。

○灰色かび病はチオファネートメチル水和剤(トップジンM水和剤など)、フルアジナム剤(フロンサイドSCなど)、ジカルボキシイミド系剤(ロブラール水和剤など)に対する耐性菌が確認されています。連用は控えましょう。

(2) さび病防除

○ほ場観察を行い、発生を確認次第防除を行いましょう。

○本病は被害茎葉が感染源となり、多湿土壌で生育初期の感染が多発するとされています。短期輪作ほ場や、過去に発生があったほ場は特に注意しましょう。

(3) マメシクイガ、マメノメイガ防除

○農業試験場で飛来が確認されております。被害を確認次第、ノメイガ類に登録のある農薬を用いて防除を行いましょう。

表1 マメシクイガ、ノメイガ類に登録がある薬剤例

薬剤名	系統名	希釈倍率	使用回数	使用時期
プレバソフロアブル5	ジアミド	4000倍	2回	7日前まで
スミチオン乳剤	ピレスロイド	1000倍	4回	21日前まで

(4) ベと病防除

○本年は7月下旬に初発が確認されております。要防除水準は、開花始の上位葉(上から見た場合に見てとれる葉)の病斑面積率で2.5%(病斑個数30個/葉、葉全面に病斑がみられる)となります。初発を見つけ次第、防除を行いましょう。

表2 ベと病に登録がある薬剤例

薬剤名	系統名	希釈倍率	使用回数	使用時期
プロポーズ顆粒水和剤	CAA・TPN	1000倍	2回	21日前まで
レーバスフロアブル	CAA	1500~ 3000倍	3回	7日前まで

**熱中症に注意！こまめな休憩・水分補給！**

**機械の点検や調整は、必ずエンジンを停止！**